

全体目標

快適に水遊びができ、「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する、
親しみやすく美しい「海」を取り戻し、首都圏にふさわしい「東京湾」を創出する。

(第一期の目標に赤線部を追加。「江戸前」とは、東京湾全体でとれる新鮮な魚介類と定義。)

第二期計画のポイント

- 第一期期間において、流入負荷の削減や、干潟・浅場の造成等による生物種や個体数の増加等の改善が認められたものの、第一期計画の目標達成指標である「湾内の底層DO(溶存酸素量)」に明らかな改善傾向が認められなかったことを踏まえ、第二期計画は以下のとおりとする。
- ★ 東京湾の環境改善に向けた活動や行動の輪を拡げるため、企業、NPO、水産関係者、研究者、レジャー関係者、住民等東京湾に関わりをもつ多様な主体で構成される「東京湾再生官民連携フォーラム(仮称)*1」を設置し、推進会議への提言を担う組織とする。
- ★ 施策の効果を端的に評価できる場所を「アピールポイント*2」として7カ所を設定する。
- ★ 長期的視点で粘り強く取組を継続するとともに、できることをできるところから一つずつ環境改善対策を積み重ねる。
- ★ あらゆる興味を東京湾に引き付けられるよう、「評価指標*3」や手法を工夫する。

目標達成のための施策

陸域

- 水質総量削減の推進
- 污水处理施設の整備・普及
- 雨天時における流出負荷の削減
- 河川の浄化対策
- 面源から発生する汚濁負荷の削減
- 浮遊ゴミ等の回収 等

污水处理施設の整備・普及(高度処理)



海域

- 干潟・浅場・藻場等の保全・再生・創出
- 汚泥浚渫と覆砂の実施による底質の改善
- 過去の土砂採取等による深掘り跡の埋め戻し
- 生物共生型護岸への整備・改修
- 貧酸素水塊及び青潮発生メカニズムの解明及び有効対策の実施 等

生物共生型護岸の整備



モニタリング

- 東京湾水質一斉調査の実施
- モニタリングポストや海洋レーダー、調査船等による水質・底質調査、赤潮・青潮調査、生物調査等

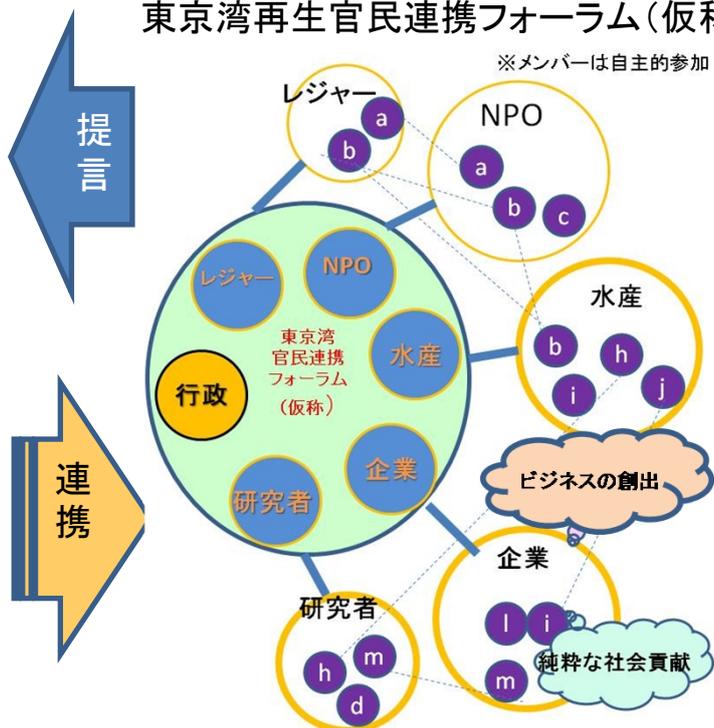
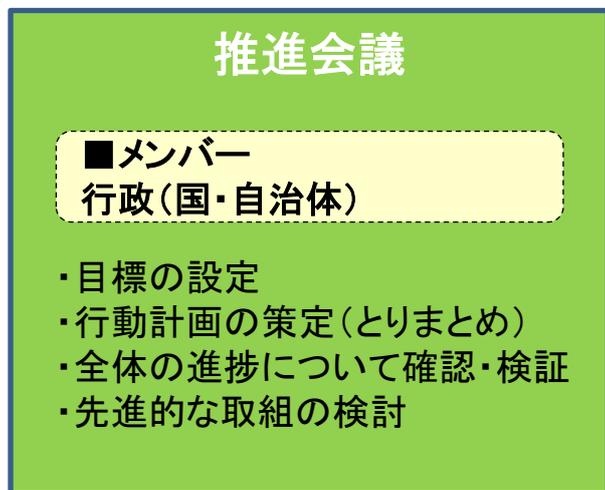
東京湾水質一斉調査



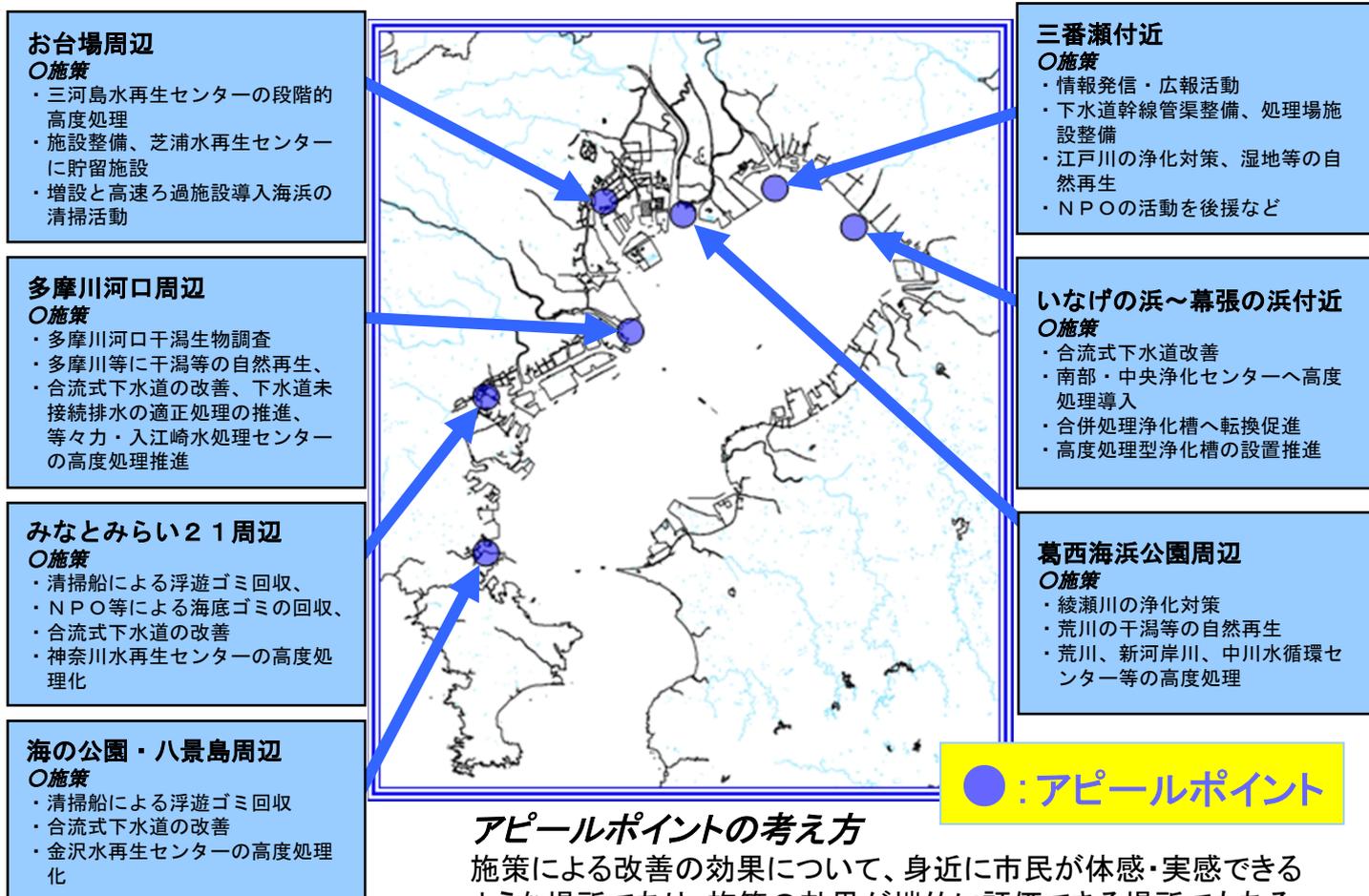
*1 東京湾再生官民連携フォーラム(仮称)の体制

東京湾再生推進会議

東京湾再生官民連携フォーラム(仮称)



*2 アピールポイント



*3 評価指標と目標、施策との関係(案)



注) 評価指標及び当該指標に対する数値目標等については、東京湾再生官民連携フォーラム(仮称)の議論等を踏まえ決定する。